



『SNS選挙という罠 ～自分の頭で考え直すために』

物江 潤【著】/平凡社 (2025/6)



選挙でSNSにあふれる情報に惑わされな
いためにどうすれば
よいのか？ 2024
年兵庫県知事選での
SNSの影響を検証し
つつ、思想家 吉本隆
明が説いた「自立」の
考え方に立ち返り、
SNS選挙を確かな意
思で乗り越える。

『女性議員は「変な女」なのか』

野田 聖子・辻本 清美【著】/小学館
(2025/6)



生まれも育ちも違う
のに、なぜか仲の良い
著者2人。超男社会の
国会で、「女のくせに
変な女」と指差されな
がらも、信念に従い議
員を続けてきた彼女
達と、どう働き、どう
政治にコミットして
いくかを考える、元気
あふれる対談本！

『日本の食料安全保障とはなにか？』

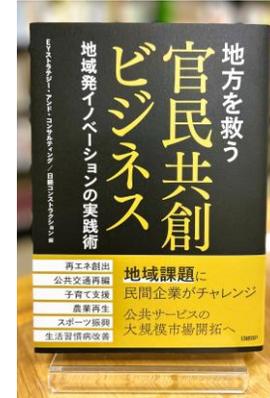
深田 萌絵・鈴木 宣弘【著】/かや書房
(2025/5)



令和のコメ不足で、日
本の食糧自給の貧弱
さが露呈した。日
本の農業を取り巻
く構造のどこに原因
があるのか？ 食べ物
を守ることで、日本
の国土と健康を守る、
「真の国防」のための
1冊。

『地方を救う 官民共創ビジネス ～地域発イノベーションの実践術』

EYストラテジー アンド コンサルティング・
日経コンストラクション【編著】/日経BP
(2025/6)



今、地域が抱える課題
は、公共セクター単
独の対応では難しく、
民間企業の知見や活
力を取り入れた「官
民共創」によるイノ
ベーション創出が不
可欠。そんな全国の
イノベーション成
功事例を詳しく、図
解でわかりやすく解
説する。

『中学生が多文化共生について本気で考えてみた』

山崎 寛己【著】 釜田 聡【監修】/
東洋館出版社 (2025/4)



新潟の公立中学校で、
1人の教師と子ども
たちから始まった「多
文化共生学習」。生徒
たちが隣人を訪ね、問
い、本気で考えた「共
に生きる社会」の実現
方法とは？ 彼らが自
分なりの答えを導く
までの、約1年間の軌
跡を綴る。

『障害のある人の暮らす権利 ～ともに歩む支援者たちへ』

田中 智子・三木 裕和 他【編著】/クリエ
イツかもがわ (2025/6)



入所施設・グループ
ホームで暮らす人は
今、30万人を超える。
障害のある方の自立、
意思決定、子育て支
援、触法、強度行動障
害などについて読み
解き、「暮らしの場
での専門性」を理論化。
支援者へのエールと
なる本。

『子どもは誰のものか？ ～離婚後「共同親権」が日本を救う』

嘉田 由紀子【著】/文藝春秋 (2025/5)



国際的に離婚後の共
同親権が認められる
中、なぜ日本では認め
られないのか？ 当事
者との対話から浮か
び上がったのは、過
度なフェミニズムによ
る社会の歪みだった。
「子どもの最善の利
益」を重視した、家族
の未来を展望する。

『ごみと暮らしの社会学 ～モノとごみの境界を歩く』

梅川 由紀【著】/青弓社 (2025/5)



日常生活に密接した
「生活文化としてのご
み」に着目。ごみとモ
ノの境界、その境界が
どう変化してきたの
かを多角的に検証。フ
リマアプリの浸透な
ど、今日のリユースに
もつながる視点・論
点を提示する、ごみを
めぐる知的冒険の書！

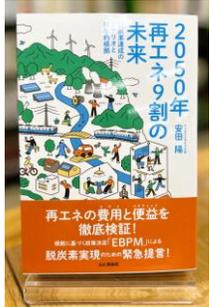
▶特別委員会シリーズ②「ヤード」対策等に関する書籍



新着

『2050年再エネ9割の未来
～脱炭素達成のシナリオと科学的根拠』

安田 陽【著】/山と溪谷社 (2024/12)



気鋭の研究者が世界のオープンソース・インテリジェンスを元に、これまでの常識を覆す！ 本当に実現可能な脱炭素のシナリオとは？ 世界が注目し、日本の産業界の生き残りをかけた、再エネの行方を描く。

『GX(グリーン・トランスフォーメーション)がよくわかる本』

関 貴大・松村 雄太【著】/秀和システム (2023/8)



今GXが注目される背景と、国内外の取り組み事例を豊富に紹介。GX投資、DX、メタバースなどの環境関連のキーワードもわかりやすく解説。SDGsやDX、SXとの関連がよくわかる1冊。

『必然としてのサーキュラービジネス
～「利益」と「環境」を両立させる究極のSX』

磯貝 友紀【著】/日経BP (2024/7)



欧州は、人間が「地球の限界の範囲内」という条件付きで、欲望を追求することを許可する方法で、環境保護と経済成長の両立に成功している。その鍵となる「サーキュラーエコノミー」とは何か、解説する。

『循環経済入門』

～廃棄物から考える新しい経済～

笹尾 俊明【著】/岩波書店 (2023/9)



既存の廃棄物処理政策の延長線上にとどまらない「サーキュラーエコノミー」への転換が、世界中で進んでいる。持続可能な生産・消費、廃棄物処理・資源循環のあり方を経済学から考え、新しい経済の形、成長戦略を展望する。



図書広報委員会がおすすめする一冊

『プロフェッショナルの条件』

～いかに成果をあげ、成長するか～



著者：P=F=ドロッカー 編訳：上田 惇生 /ダイヤモンド社 (2000年6月)



紹介者：清水 大樹 委員
公明党・高崎市選出・1期

組織は人が創るものです。故に人が成長し続けなければ、組織の成長も成しえる事が出来ないと考えます。

世の中が今までにないスピードで変化している昨今、どのように成長し、結果を出していくのか、その答えの一助となる1冊であると確信しています。今より成長していくために自分をマネジメントする。より良い人生を歩むために人生をマネジメントしていく。そのためのアドバイスが随所に散りばめられています。

ぜひこの本を通して、働くことの意味、ご自身の強みを再確認、再発見していただき、皆様の自己実現に役立てていただければと思います。

次号では、水野 喜徳 委員におすすめしていただきます！



議会事務局政策広報課 (議会図書室)